

2022年度前期科目授業評価

アンケート質問項目

〈 講 義 〉

- 1 授業は科目の授業概要に一致した内容であった。
 - 2 教員はこの科目に関する十分な知識を提供した。
 - 3 授業における教員の説明(講義・質疑への応答など)は理解しやすかった
 - 4 授業の理解を助けるための板書、資料の配布、視聴覚教材の用い方などが適切であった。
 - 5 教員は授業を様々な形態を通して興味深くする努力をしていた。
 - 6 授業での要求(課題・テストの頻度・量・難易度)は適切であった。
 - 7 教員の学生に接する態度(公平さ・誠実さ・熱意など)は良好であった。
 - 8 この科目は全般的に見て、私にとって有益であった。
 - 9 あなたはこの授業に深い関心を持って参加できましたか
 - 10 あなた自身はこの授業科目を学習するにあたって、自ら努力をしましたか。
 - 11 上記各項目の評価と関連して、できるだけ具体的に自由に授業に対する意見を述べてください。

〈 実 習 〉

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 この実習に際して意欲的に学ぼうとしましたか。 | 20 困ったときのアドバイスは機を得ていると思った。 |
| 2 この実習に対しての予習や、既習の関連科目の復習をして臨みましたか。 | 21 実習中の教員とのやりとりでは、学生の意見は聞き入れられていました。 |
| 3 この実習で日々のまとめや復習をしましたか。 | 22 学生に十分考える時間を与えた。 |
| 4 この実習で自己の健康管理に気をつけましたか。 | 23 カンファレンスの目的を達成するための努力・助言は適当であった。 |
| 5 実習の目的・目標が明確に理解できるように説明した。 | 24 教員が直接に援助技術を提供している場面があった。 |
| 6 実習場の概要が理解できるように説明した。 | 25 学生の示す問題点と、患者(あるいは対象者)の持つ問題点のずれがあった場合の助言は適切であった。 |
| 7 実習場の責任者及び指導者に学生を紹介した。 | 26 受け持ち対象者以外の検査、処置の見学(介助)場面を体験する機会を作った。 |
| 8 現場の指導者及びスタッフとのコミュニケーションはよかったです。 | 27 実習後のまとめを分かり易く理解できるように整理した。 |
| 9 学生がスタッフとうまく関わるように配慮していた。 | 28 実習場を離れるときは、学生に連絡し、その間の指導体制についても指示した。 |
| 10 学生の変化について敏感に対応した。 | 29 教員は患者との関係を築きながら実習指導をしていた。 |
| 11 学生に対しての声かけが適当で励みになった。 | 30 教員と現場の指導者(看護師)との指導の間に一貫性があった。 |
| 12 グループ全体のまとめ方はよかったです。 | 31 学生が患者(あるいは対象者)とうまくかかわるように配慮していた。 |
| 13 学生の健康状態を把握し必要な配慮をした。 | 32 実習に伴う記録物に対する教員のコメント(助言)は納得できるものであった。 |
| 14 学生の意見を認めたうえでアドバイスや指導を行っていた。 | 33 記録にある事実や、思考過程を確認して、納得ができる助言をしてくれた。 |
| 15 どの学生にも平等に接していた。 | 34 教員がもっている看護に対する姿勢は素晴らしいと感じられた。 |
| 16 先入観を持たずに学生に接していた。 | 35 教員の看護観を押しつけるところが感じられなかった。 |
| 17 学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重していた。 | 36 患者(あるいは対象者)に対する教員の接し方は、無言の教育となつた。 |
| 18 教員と学生とのコミュニケーションはよかったです。 | 37 教員の患者(あるいは対象者)に対する態度から学ぶ機会の多い実習であった。 |
| 19 受け持ち患者(対象者)の決定が適当であった。 | 38 実習指導についての意見・要望・感想など、あれば遠慮なく記述して下さい。 |

評 価

教養教育科目		専門基礎教育科目		専門教育科目					
				講 義		演 習		実 習	
科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価
キリスト教概論A	4.95	人体の形態と機能 I	4.55	看護学概論	4.60	生活行動援助論 I	4.60	基礎看護学実習 I	4.68
キリスト教概論B	4.68	生化学	4.37	看護技術の基礎	4.65	ヘルスアセスメント	4.38	地域看護学実習	4.28
聖書 II	4.40	疾病・治療学 II	4.31	地域看護学概論	4.45	診療の援助技術論 I	4.47	国際看護実習 II	4.80
聖書 III	4.31	薬理学	4.64	産業保健	4.04	在宅看護論 II	4.05		
キリスト教音楽 I	4.36	健康教育論 II	4.34	学校保健	4.20	慢性期看護論	3.73		
心理学	4.67	保健統計演習	4.02	緩和ケア・終末期看護論	4.53	女性の健康問題と看護	4.21		
スポーツ科学 I	4.55	疫 学	3.16	子どもの特徴と生活と健康	4.67	看護展開演習 II	4.25		
社会学	4.36	保健医療福祉行政論	3.12	健康問題をもつ子どもと看護	4.47				
ボランティア活動論	4.83	保健医療社会学	4.42	女性の特徴と生活と健康	4.22				
日本文化演習	5.00	ファシリテーション	4.56	こころと健康	4.05				
基礎学習セミナー	4.06			こころを病む人と看護	4.22				
情報科学	4.36			国際看護論	4.42				
物理学	4.93			国際保健医療問題	4.41				
生物学	4.90			スピリチュアルケア	4.05				
生活環境論	4.76			看護研究の基礎	3.89				
英会話 I	4.59			看護診断・成果・介入のリンクエージ	5.00				
英語 II	3.74			看護管理学	4.35				
				看護教育学	4.67				
総合評価	4.56	総合評価	4.15	総合評価	4.38	総合評価	4.24	総合評価	4.59

《保健師課程カリキュラム科目》

【評価基準】5：非常にそう思う 4：そう思う 3：どちらともいえない 2：そう思わない 1：全くそう思わない

専門教育科目						
講義		演習		実習		
科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価	
公衆衛生看護学原論	4.29	対象別支援技術論	4.51	公衆衛生看護学実習Ⅰ		
地域ケアシステム論	4.10			公衆衛生看護学実習Ⅱ		3.74
公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	4.65			公衆衛生看護学実習Ⅲ		
公衆衛生看護管理論	3.91					
総合評価	4.24	総合評価	4.51	総合評価	3.74	

2022年度後期科目授業評価

アンケート質問項目

〈講義〉

- 授業は科目的授業概要に一致した内容であった。
- 教員はこの科目に関する十分な知識を提供した。
- 授業における教員の説明(講義・質疑への応答など)は理解しやすかった。
- 授業の理解を助けるための板書、資料の配布、視聴覚教材の用い方などが適切であった。
- 教員は授業を様々な形態を通して興味深くする努力をしていた。
- 授業での要求(課題・テストの頻度・量・難易度)は適切であった。
- 教員の学生に対する態度(公平さ・誠実さ・熱意など)は良好であった。
- この科目は全般的に見て、私にとって有益であった。
- あなたはこの授業に深い関心を持って参加できましたか。
- あなた自身はこの授業科目を学習するにあたって、自ら努力をしましたか。
- 上記各項目の評価と関連して、できるだけ具体的に自由に授業に対する意見を述べてください。

〈実習〉

- この実習に際して意欲的に学ぼうとしましたか。
- この実習に対しての予習や、既習の関連科目の復習をして臨みましたか。
- この実習で日々のまとめや復習をしましたか。
- この実習で自己の健康管理に気をつけましたか。
- 実習の目的・目標が明確に理解できるように説明した。
- 実習場の概要が理解できるように説明した。
- 実習場の責任者及び指導者に学生を紹介した。
- 現場の指導者及びスタッフとのコミュニケーションはよかったです。
- 学生がスタッフとうまく関わるよう配慮していた。
- 学生の変化について敏感に対応した。
- 学生に対しての声かけが適当で励みになった。
- グループ全体のまとめ方はよかったです。
- 学生の健康状態を把握し必要な配慮をした。
- 学生の意見を認めたうえでアドバイスや指導を行っていた。
- どの学生にも平等に接していた。
- 先入観を持たずに学生に接していた。
- 学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重していた。
- 教員と学生とのコミュニケーションはよかったです。
- 受け持ち患者(対象者)の決定が適当であった。
- 困ったときのアドバイスは機を得ていると思った。
- 実習中の教員とのやりとりでは、学生の意見は聞き入れられていた。
- 学生に十分考える時間を与えた。
- カンファレンスの目的を達成するための努力・助言は適当であった。
- 教員が直接に援助技術を提供している場面があった。
- 学生の示す問題点と、患者(あるいは対象者)の持つ問題点のずれがあった場合の助言は適切であった。
- 受け持ち対象者以外の検査、処置の見学(介助)場面を体験する機会を作った。
- 実習後のまとめを分かり易く理解できるように整理した。
- 実習場を離れるときは、学生に連絡し、その間の指導体制についても指示した。
- 教員は患者との関係を築きながら実習指導をしていた。
- 教員と現場の指導者(看護師)との指導の間に一貫性があった。
- 学生が患者(あるいは対象者)とうまくかかわるよう配慮していた。
- 実習に伴う記録物に対する教員のコメント(助言)は納得できるものであった。
- 記録にある事実や、思考過程を確認して、納得ができる助言をしてくれた。
- 教員がもっている看護に対する姿勢は素晴らしいと感じられた。
- 教員の看護観を押しつけるところが感じられなかった。
- 患者(あるいは対象者)に対する教員の接し方は、無言の教育となった。
- 教員の患者(あるいは対象者)に対する態度から学ぶ機会の多い実習であった。
- 実習指導についての意見・要望・感想など、あれば遠慮なく記述して下さい。

評価

【評価基準】5: 非常にそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全くそう思わない

教養教育科目		専門基礎教育科目		専門教育科目					
				講義		演習		実習	
科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価	科目名	評価
アセンブリーIV	3.96	人体の形態と機能Ⅱ	4.26	三育の全人的看護と伝統	4.31	生活行動援助論Ⅱ	4.50	基礎看護学実習Ⅱ	4.11
聖書Ⅰ	4.20	微生物学	4.32	家族看護学	4.26	看護過程の基礎	4.39	地域交流実習	4.52
キリストの生涯	4.17	栄養学	4.21	在宅看護論Ⅰ	3.60	診療の援助技術論Ⅱ	4.36	在宅看護論実習	4.59
キリストの教音楽Ⅱ	4.40	疾病・治療学Ⅰ	4.40	成人の特徴と生活と健康	4.09	子どもの健康と看護	4.43	慢性期看護実習	4.49
パーソナルミニストリー	5.00	疾病・治療学Ⅲ	3.98	高齢者の特徴と生活と健康	4.08	看護展開演習Ⅰ	3.91	急性期看護実習	4.67
ミニストリーオブヒーリング	4.19	公衆衛生学	4.27	急性期・周手術期看護論	4.04	卒業研究	4.44	回復期看護実習	3.90
発達心理学	4.62	健康教育論Ⅰ	4.18	回復期リハビリテーション看護論	4.06			緩和ケア・終末期看護実習	4.80
人間関係論	4.59			看護理論	4.11			老人福祉施設実習	4.15
スポーツ科学Ⅱ	4.39			リプロダクティブ・ヘルスと看護	4.08			小児看護学実習	4.79
歴史	4.60			こころの健康増進と看護	4.14			母性看護学実習	4.46
美学	4.42			医療安全管理学	4.02			精神看護学実習	4.81
日本国憲法	4.70			看護倫理	4.03			スピリチュアルケア実習	4.26
論理的思考	4.26			災害看護学	4.56			総合看護実習	4.35
統計学	4.18			看護教育学	4.67				
化学	4.81								
英会話Ⅱ	4.43								
英語Ⅰ	4.01								
韓国語	4.78								
総合評価	4.43	総合評価	4.23	総合評価	4.15	総合評価	4.34	総合評価	4.45